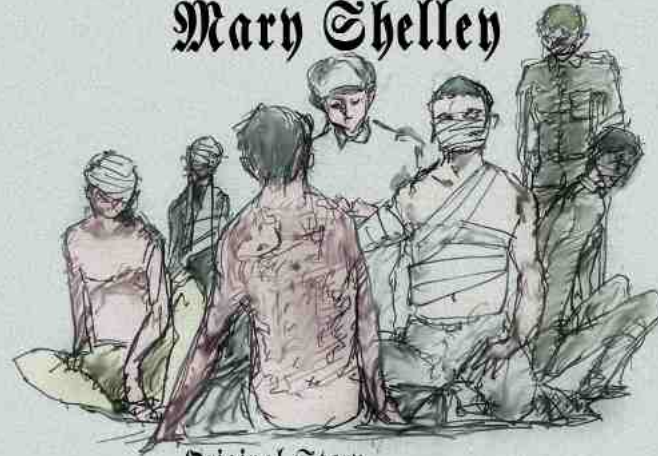


# Beyond The Creature featuring Mary Shelley

「こわい  
こわい  
あんな姿になっても人は  
生き続けるの。  
あれだけ苦しんでも人は  
死ねないの。  
地獄があるのなら  
それはきつとここだわ」



Original Story  
"Frankenstein: or The Modern Prometheus"

Written by Sunoue Kouji

「助けて下さい。  
目が見えないんだ。  
急いで前線に戻らなければ」

「その体じゃ無理よ」

「僕が撤退命令を伝えなければ全滅する」



「森を抜ければ村に出る。  
そこにドイツ兵が大勢いたわ」

「君がいてくれて幸運だ。  
しかし野戦病院にだ。  
どこか怪我をしているのか」

「あなたと同じ毒ガスを浴びたわ。  
誰かが大きなコートに包んで  
運び込んでくれた」

「毒ガスは戦場で使ってはいけない。  
戦争じゃない、只の命の奪い合いだ」



「おい、どうした」

「ああ、神様。  
遅かったのね」

「ドイツ兵だ、撃て」

「こっちよ、  
石造りの納屋があるわ」





「誰」

「俺を見るな」

「私の家の納屋よ」

「勝手に入って悪かった。  
だが俺を見るんじゃない」

「そのコートに見覚えがある。  
毒ガスの中で私を包んだ  
大きなコート」

「見つめるな、俺は醜いのだ」

「あなたが私の守護天使なのね」

「違う、俺を作ったのは創造主じゃない。  
俺は人の手で作られた醜らわしい人造人間だ」

「人造人間だって、嘘だろう」

「百年以上、人目を憚って生きてきたのだ。  
今更人間と関わるつもりはない」

俺を嫌悪し、憎悪してきた人間などとな







バキバキッ  
キュラキュラキュラ  
「逃げる、こっちだ」

「囲まれてるわ」

「投降しろ、その体では殺されはしまい」

「敵の情けに縋って生き延びろだって」

「勝ち目はない」

「僕は民族の誇りを掛けて闘っているんだ。  
死ぬ事など恐くない」

「無駄だ、  
前線は国境近くまで押し戻され、  
補給路も絶たれ、兵隊の志気は低い。  
今更戦況は覆らない」

「君はどっちの味方だ」

「俺はスイス人に造られた。  
だから俺も中立を守るのだ」





「いや、勝ち目はあるぞ、君だ。」

毒ガスに耐え、百年を生きる生命力、  
そしてそれが人の手で作り出せるのなら  
最強の軍隊を作れる。

さあ、僕とベルリンへ行くんだ」

「待って、彼をどうするつもりなの」

「人造人間の秘密を調べるんだ、  
解剖して」

「なんて酷い事を」





パンツ

「ああっ！」



「撃たれたのか」

「ベルリンは後回した。  
医者に診てもらう」

「医者など近くにはいないぞ」

「イギリス軍には  
軍医がいる」

「投降などしない」

「ならばお前を  
置いていくだけだ」

「そうはさせない、  
人造人間の秘密を  
協商国に渡してたまるか。  
この怪物め」

「怪物」

「そうさ、創造主に逆らう  
穢らしい怪物だ」

「飛行機も戦車も、創造主が造った物か。  
愛も無く造られた俺も同じだ。」

祝福されず生まれた物は、  
怪物になるしかないのだ」







「生き延びる、ド・ラセー家の娘」

「私の名前を、なぜ」

「お前の曾祖父は俺を恐れ、嫌い、憎んだ。  
だが俺は、言葉と知識を学んだ恩に  
報いたいのだ」

「ああ、  
やっぱりあなたは私の守護天使」



「違う、お前が俺の天使なのだ」





「僕は屈しない。

この僕がゲルマン人の  
理想の世界を作るのだ。

何年かかろうと、

世界中を敵にまわしても」